

V 妊娠中の評価

--健康教育前の知識と健康教育直後の評価--

V 妊娠中の評価（回収 1225 人）

--健康教育前の知識と健康教育直後の評価--

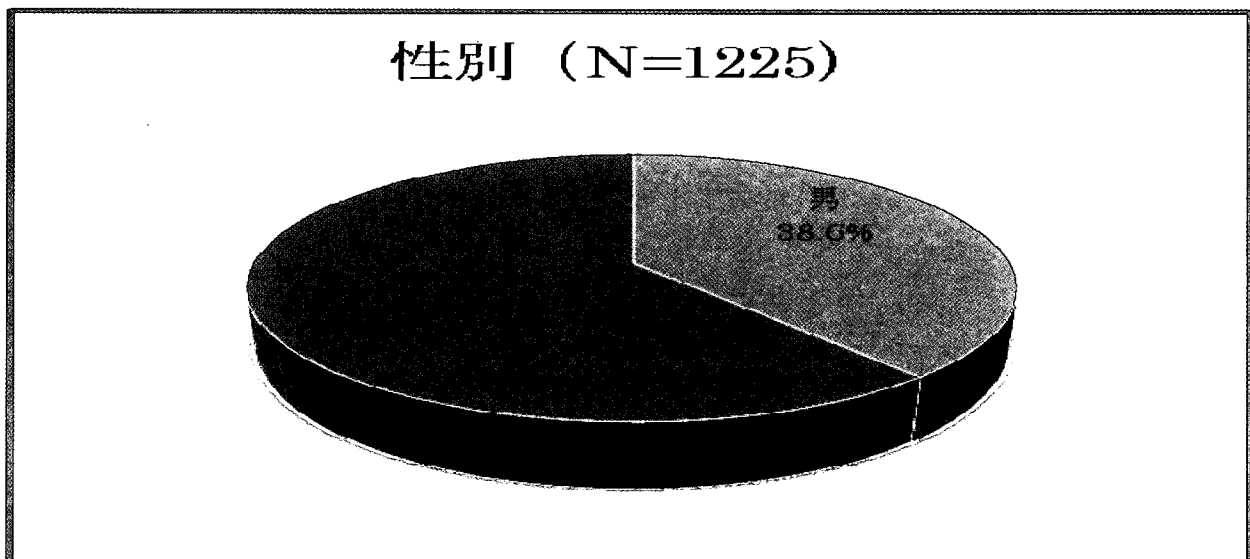
1. 妊娠中のアンケート対象者の属性

妊娠中の教育を受けた対象者にアンケートを行い、その回答者の性別、年齢別の内訳を図V-1・図V-2に示した。

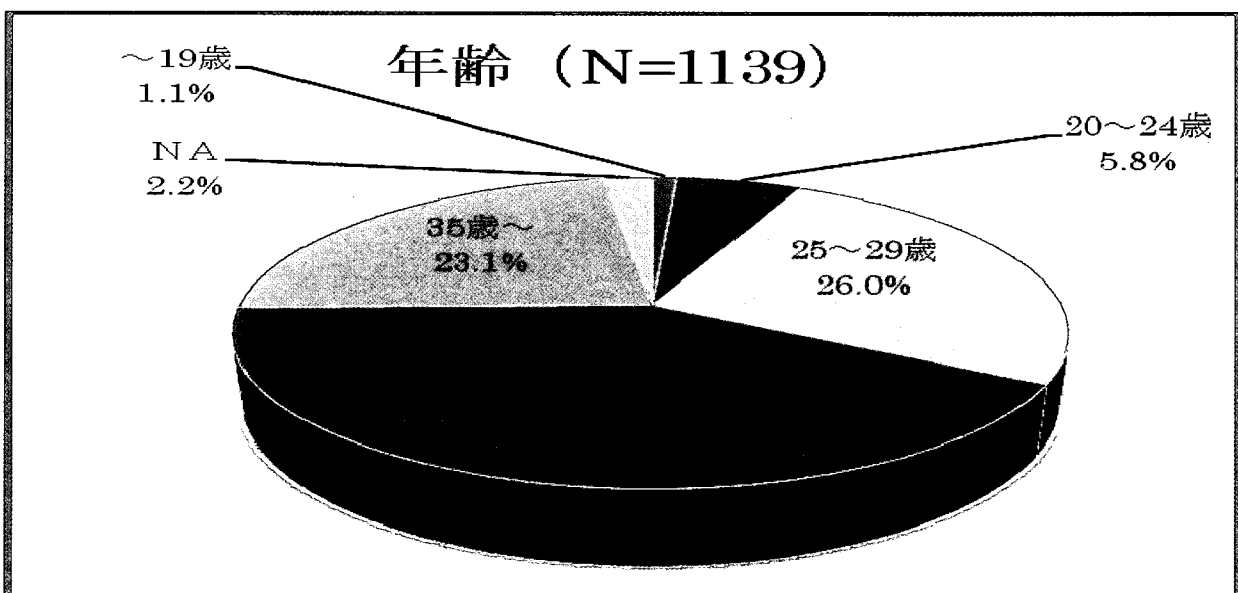
性別では男性 473 人、女性 792 人。年齢別では「～24 歳」81 人、「25 歳～29 歳」303 人、「30 歳～34 歳」486 人、「35 歳～」269 人の不明 26 (2.4%) 回答を得た。

なお、試行時期の平成 18 年 7 月、8 月については、アンケートに年齢の設問項目を設けていなかったため、年齢回答は 1139 人である。

図V-1 健康教育後のアンケート回答者、性別の内訳

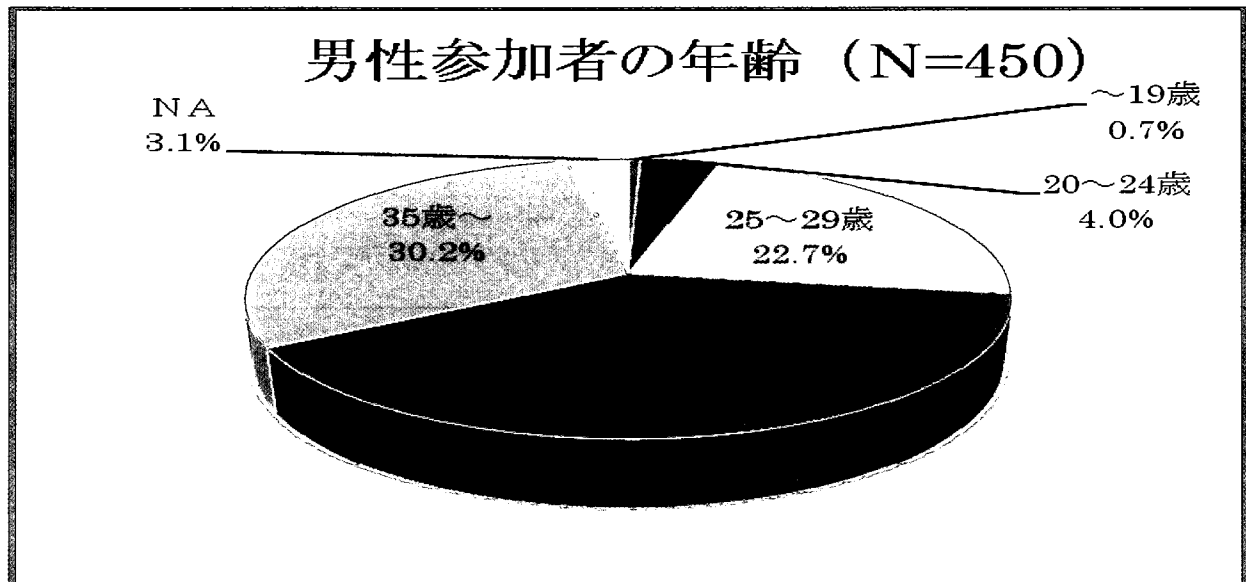


図V-2 健康教育後のアンケート回答者、年齢の内訳

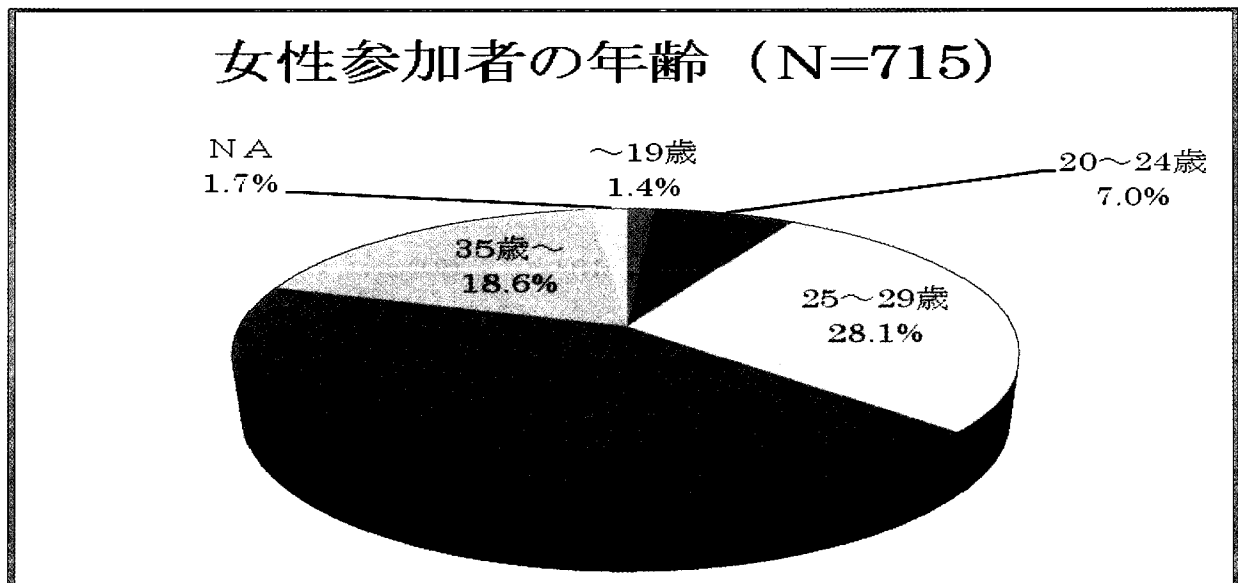


受講者を男女別に、5歳きざみの年齢で分類し、図V-3・図V-4に示した。男女とも年齢構成の差はない。

図V-3 男性の年齢構成



図V-4 女性の年齢構成



2. 喫煙についての教育前知識と教育直後の評価

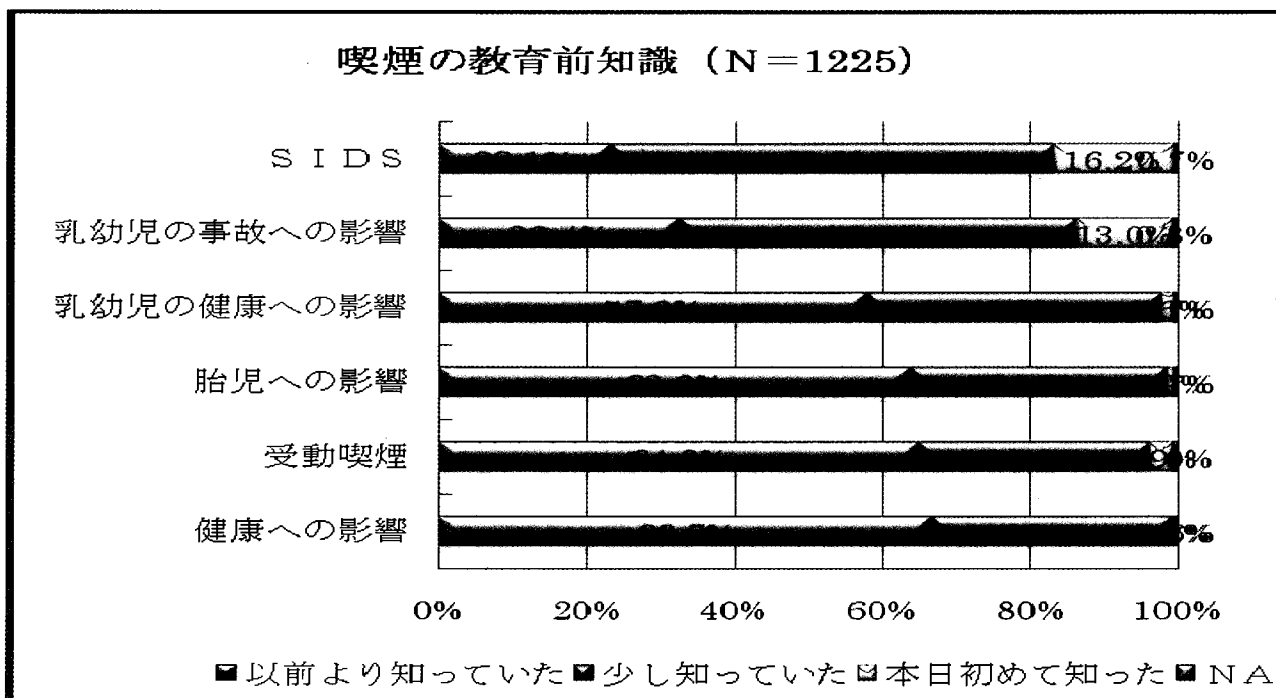
1) 喫煙についての教育前の知識

①受講者全員 (1225 人)

受講者 1225 人の教育前の知識を図 V-5 に示した。喫煙の教育前の知識は、母親学級受講者が教育直後に、受講前の自身の知識を振り返ったものであり、「健康への影響」「受動喫煙」「胎児への影響」「乳幼児の健康への影響」「乳幼児の事故への影響」「SIDS」の項目で評価した。

教育前の知識は「健康への影響」「受動喫煙」「胎児への影響」の項目で、「以前よりよく知っている」と回答した割合は 60%以上、「乳幼児の健康への影響」は 57.8%であるが、「乳幼児の事故への影響」は 32.4%、「SIDS」は 23.1%と低い。「乳幼児の事故への影響」「SIDS」については 6 人に 1 人が知識を持っていないことがわかった。

図 V-5 喫煙の教育前知識



②性別（男性 473人 女性 752人）

受講者の性別は、男性 473人、女性 752人であった。

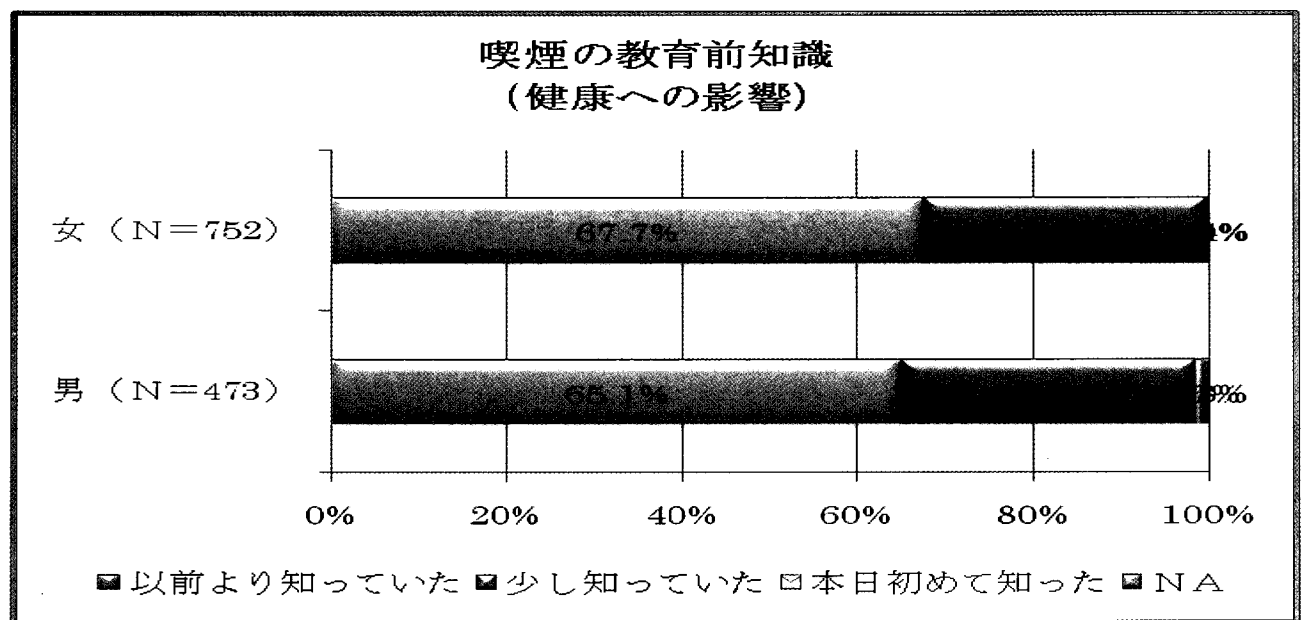
喫煙について教育前知識を性別で分類し、図V-6～図V-11に示した。

喫煙の教育前知識は、「健康への影響」「受動喫煙」「乳幼児の健康への影響」の項目で「以前よりよく知っていた」と回答した割合に性差はない。

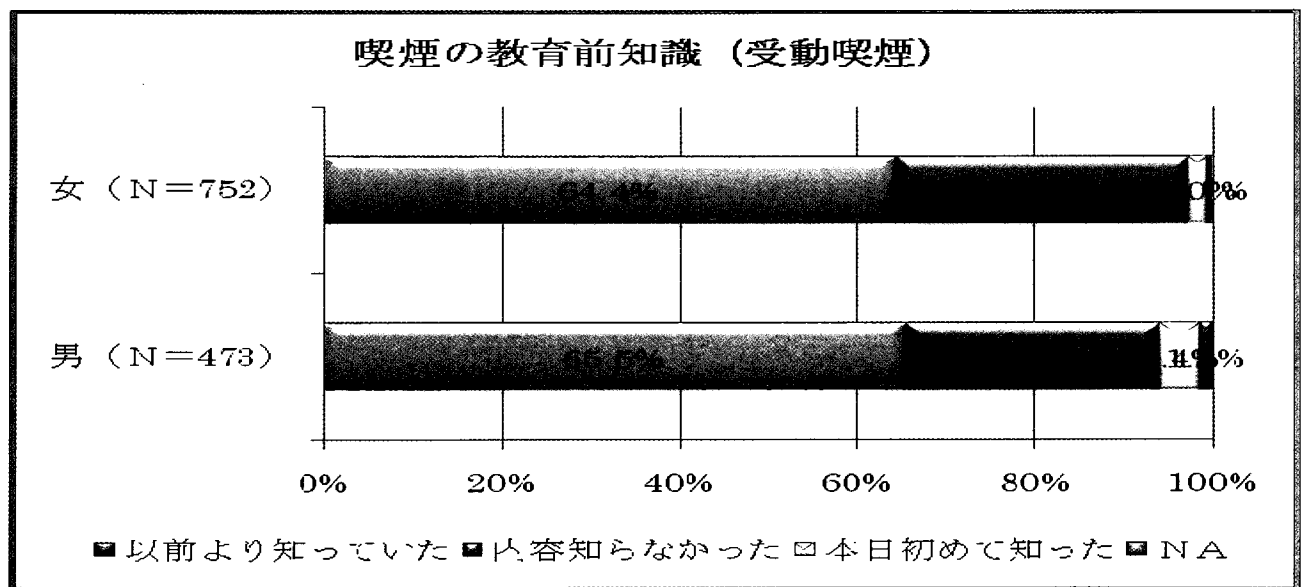
一方、「乳幼児の事故への影響」は、男性が 27.9%に対して女性 35.2%、「胎児への影響」は男性が 56.7%に対して女性 68.2%、「SIDS」は男性 13.3%に対して女性 29.3%が「以前よりよく知っていた」と回答しており、女性の方に知識がある。

「胎児への影響」「SIDS」については、「以前よりよく知っていた」と回答した男女の割合に10%以上の開きがあり、性別による差があることがわかった。

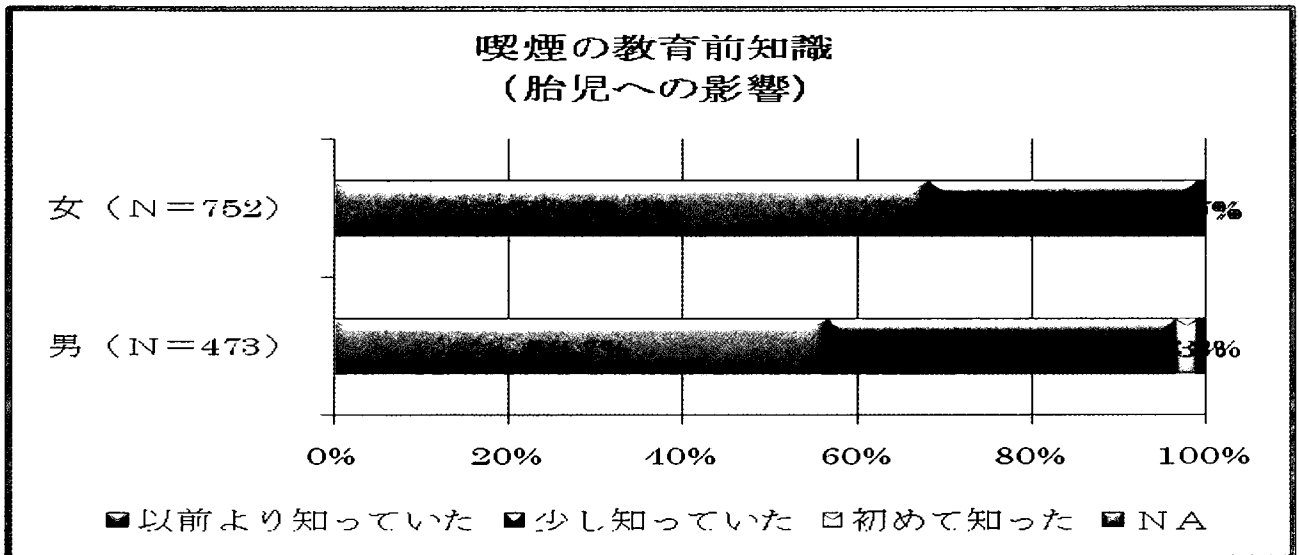
図V-6 喫煙の教育前知識の性別分類（健康への影響）



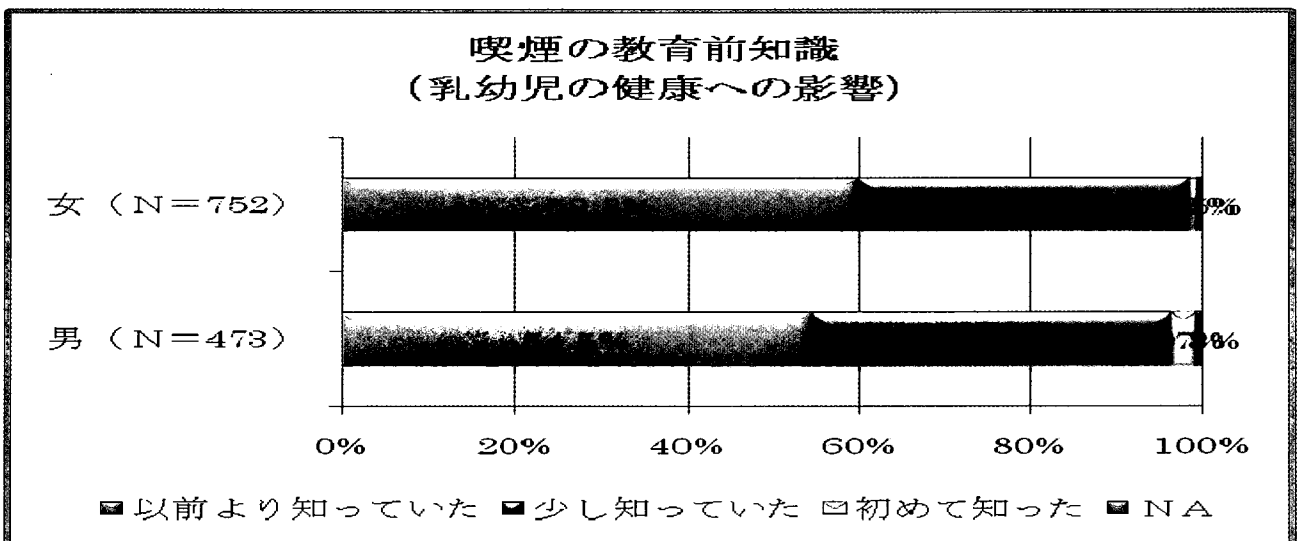
図V-7 喫煙の教育前知識の性別分類（受動喫煙）



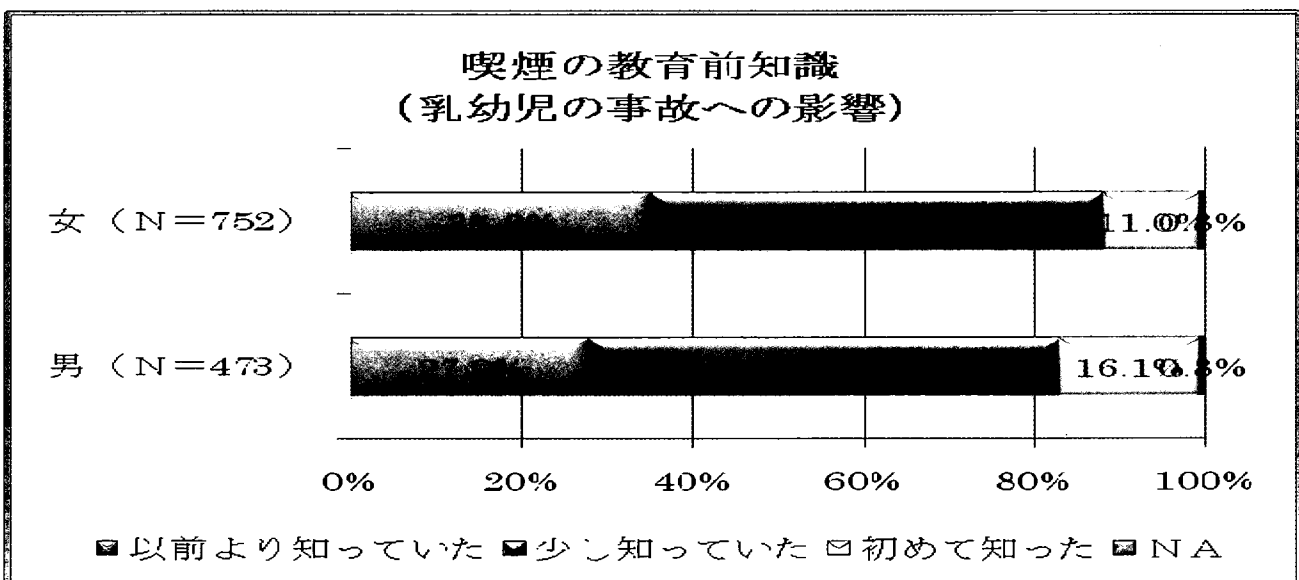
図V-8 喫煙の教育前知識の性別分類（胎児への影響）



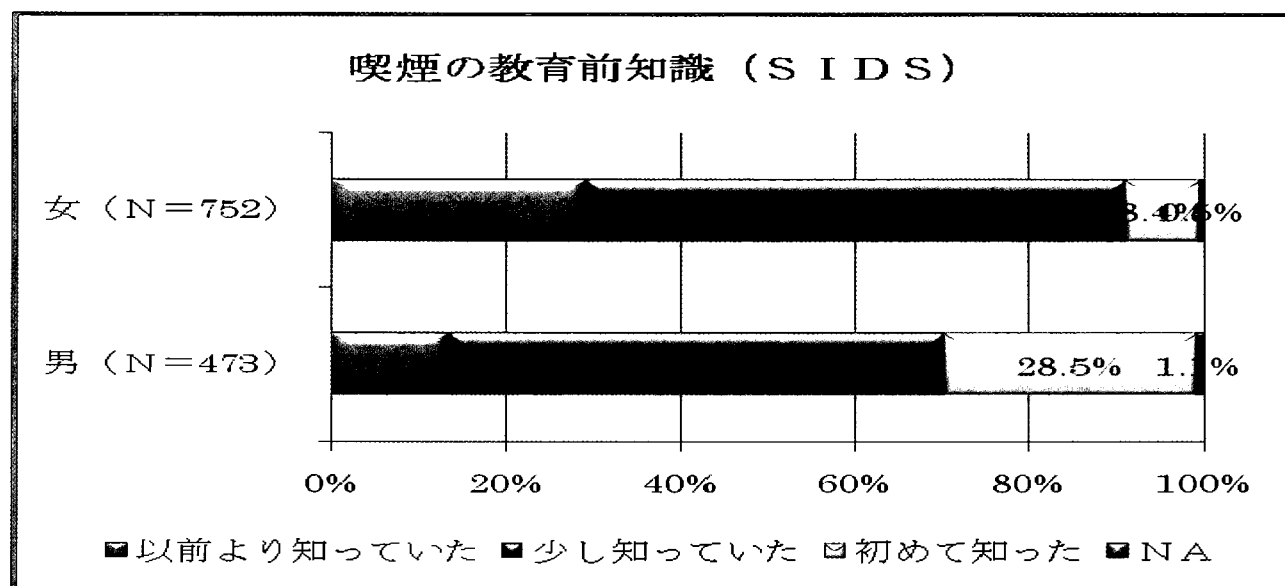
図V-9 喫煙の教育前知識の性別分類（乳幼児の健康への影響）



図V-10 喫煙の教育前知識の性別分類（乳幼児の事故への影響）



図V-11 喫煙の教育前知識の性別分類（SIDS）

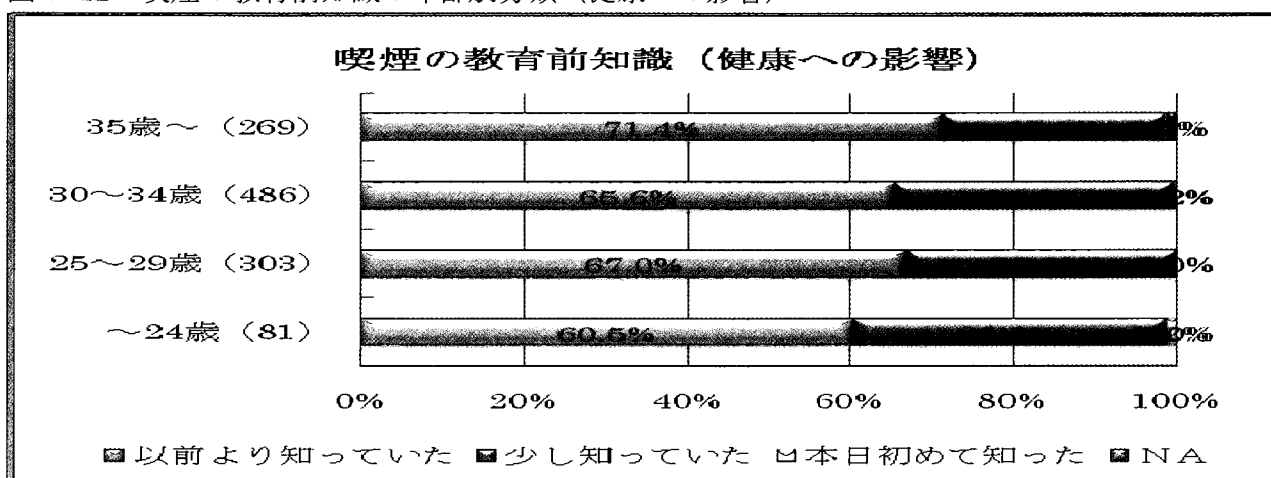


③年齢別

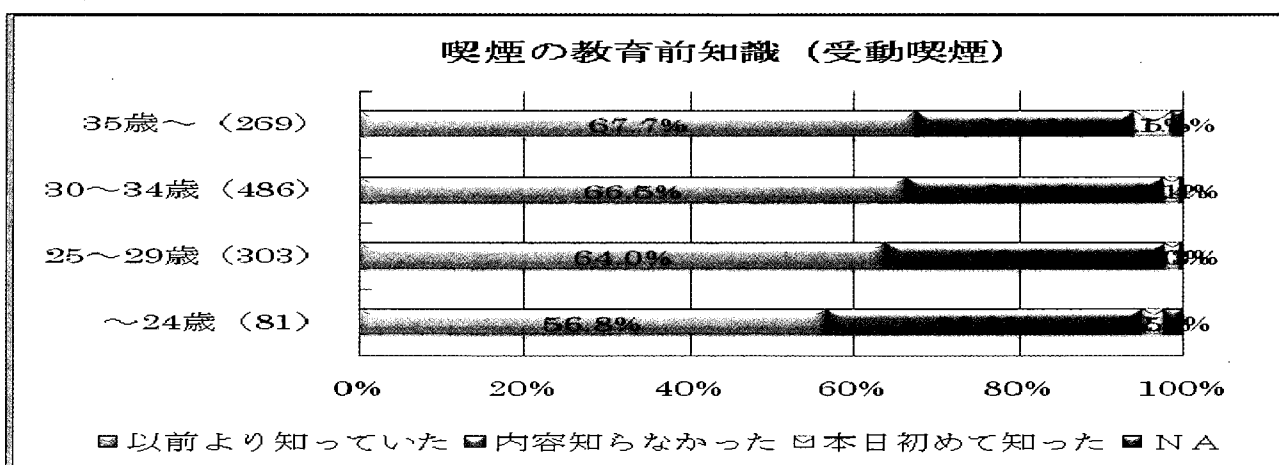
喫煙の教育前知識を年齢別に分類し、図V-12～図V-17に示した。

喫煙に関する教育前知識の年齢別の特徴として、「健康への影響」「受動喫煙」の項目では年齢が低いほど「以前よりよく知っていた」と回答した割合が低い。特に「～24歳」の若い年齢層に、「以前よりよく知っていた」と回答した割合が最も低く、「35歳～」に比べると約10%以上の開きがある。「胎児への影響」「乳幼児の健康への影響」「乳幼児の事故への影響」「SIDS」の項目では、年代による知識の差は認められない。

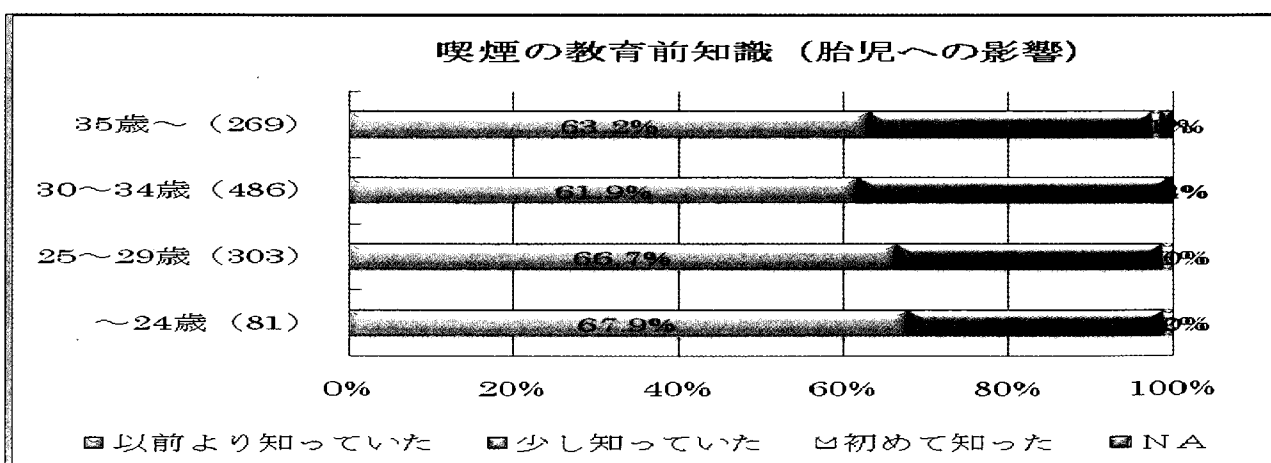
図V-12 喫煙の教育前知識の年齢別分類（健康への影響）



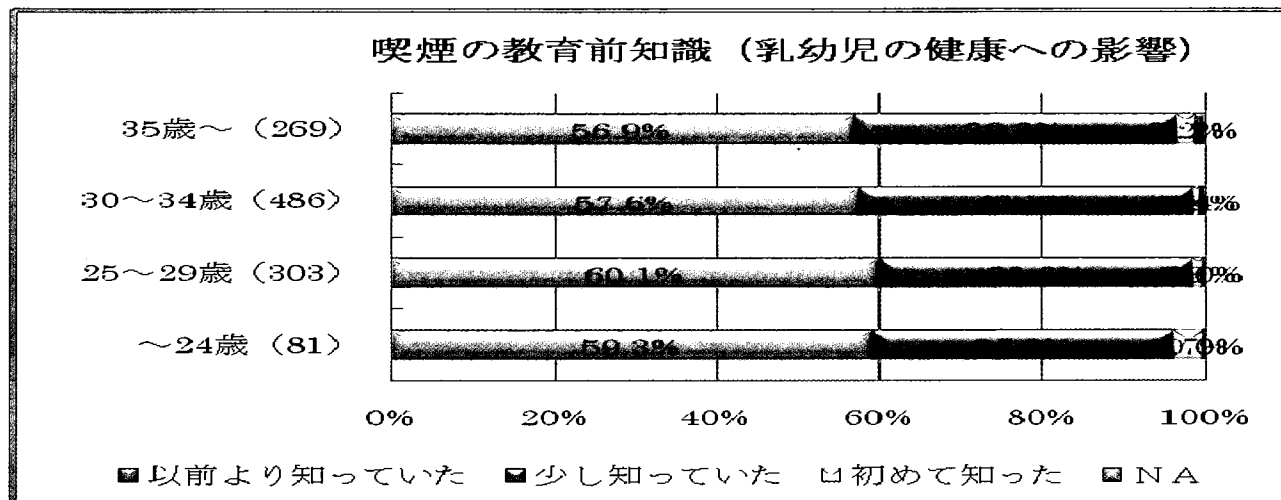
図V-13 喫煙の教育前知識の年齢別分類（受動喫煙）



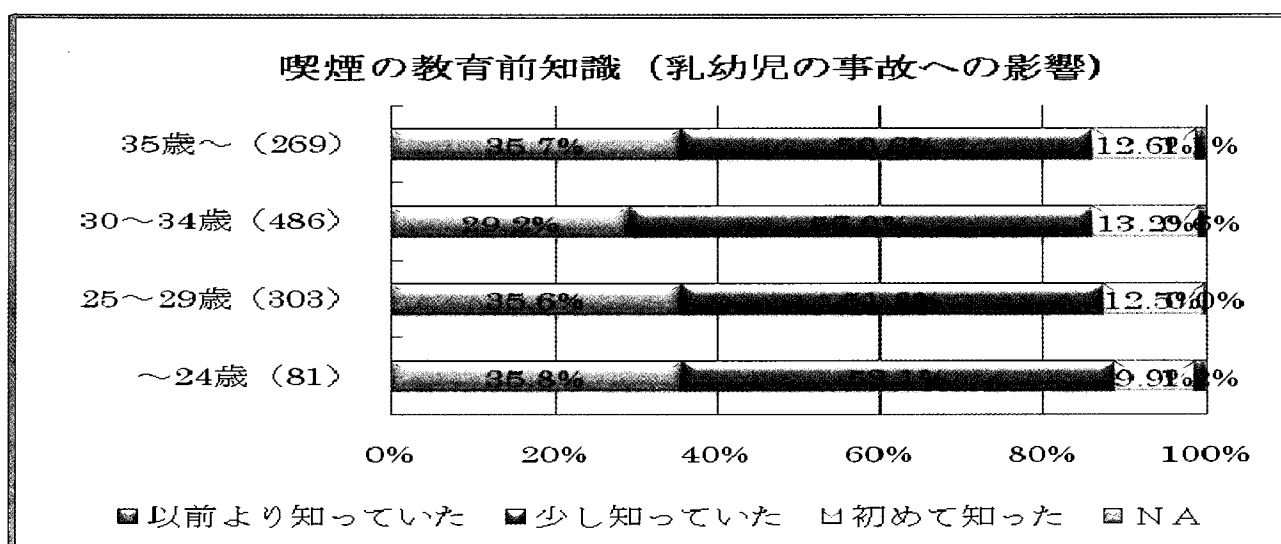
図V-14 喫煙の教育前知識の年齢別分類（胎児への影響していること）



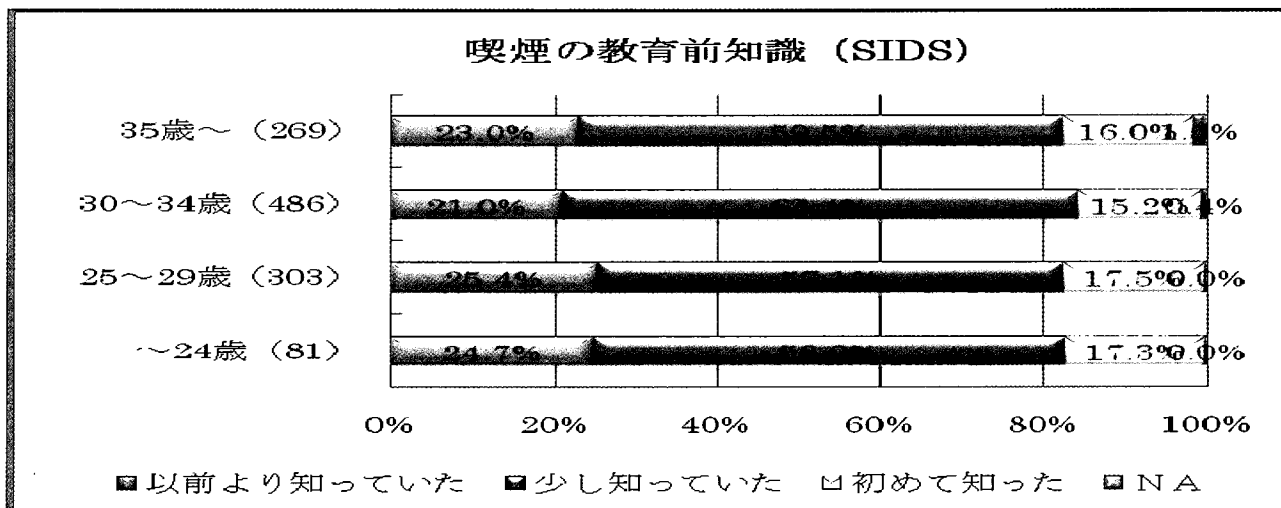
図V-15 喫煙の教育前知識の年齢別分類（乳幼児の健康への影響）



図V-16 喫煙の教育前知識の年齢別分類（乳幼児の事故への影響）



図V-17 喫煙の教育前知識の年齢別分類（SIDS）



2) 喫煙についての教育後の理解

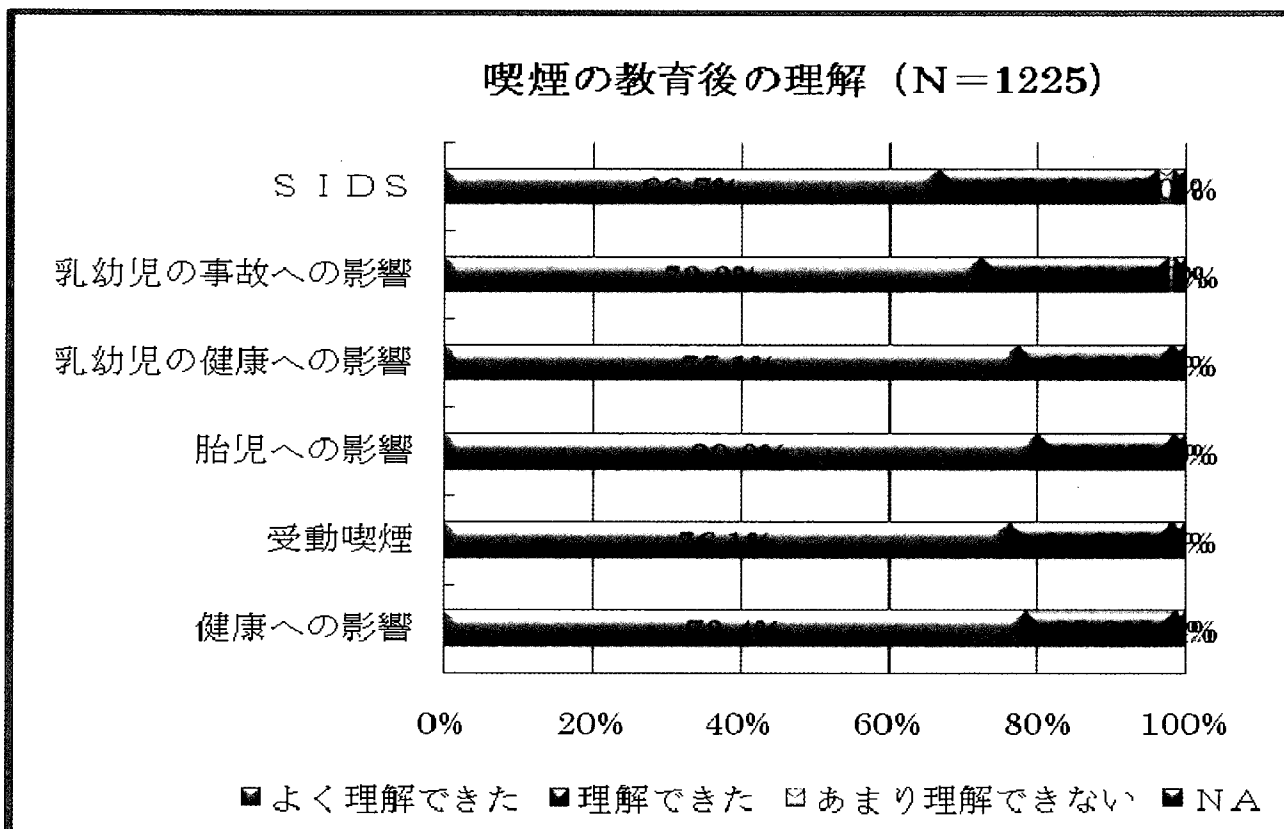
①受講者全員

喫煙の教育後の理解を図V-18に示した。教育後の理解は、喫煙についての教育の理解度について、母親学級直後にアンケートを実施した。「健康への影響」「受動喫煙」「胎児への影響」「乳幼児の健康への影響」「乳幼児の事故への影響」「SIDS」の項目で評価した。

「健康への影響」「受動喫煙」「胎児への影響」の項目では、教育前に「以前よりよく知っている」と回答したのは60%前後であるが（p13）、教育後は全項目において90%以上が「よく理解できた」「理解できた」と回答している。

一方、「よく理解できた」と回答したのは「乳幼児の事故への影響」で72.2%、「SIDS」では66.7%と他項目に比べ低いが、教育前と比較すると大幅に理解した者が増加している。

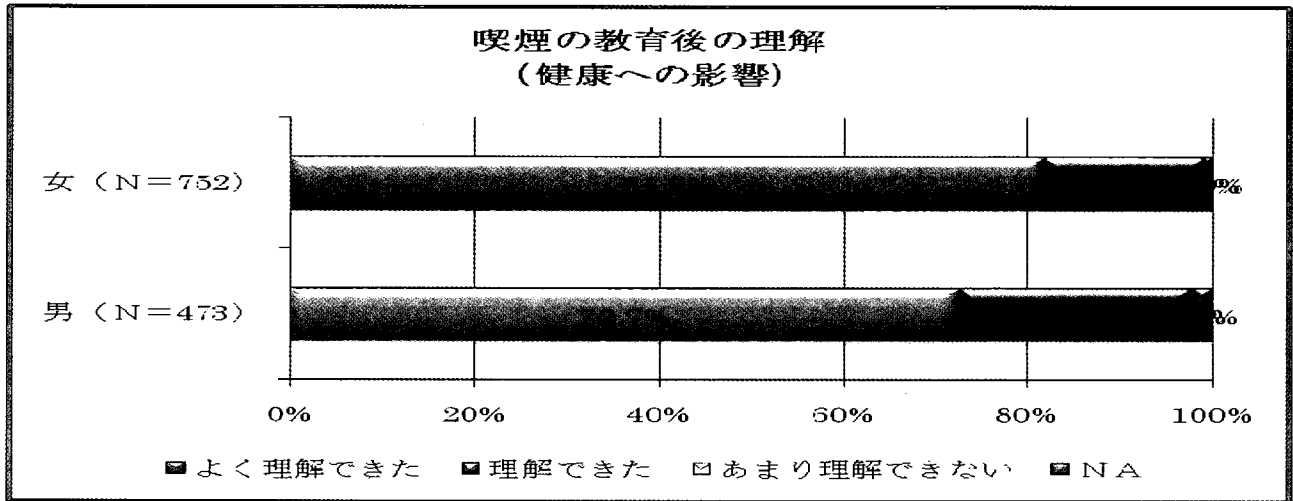
図V-18 喫煙の教育後の理解



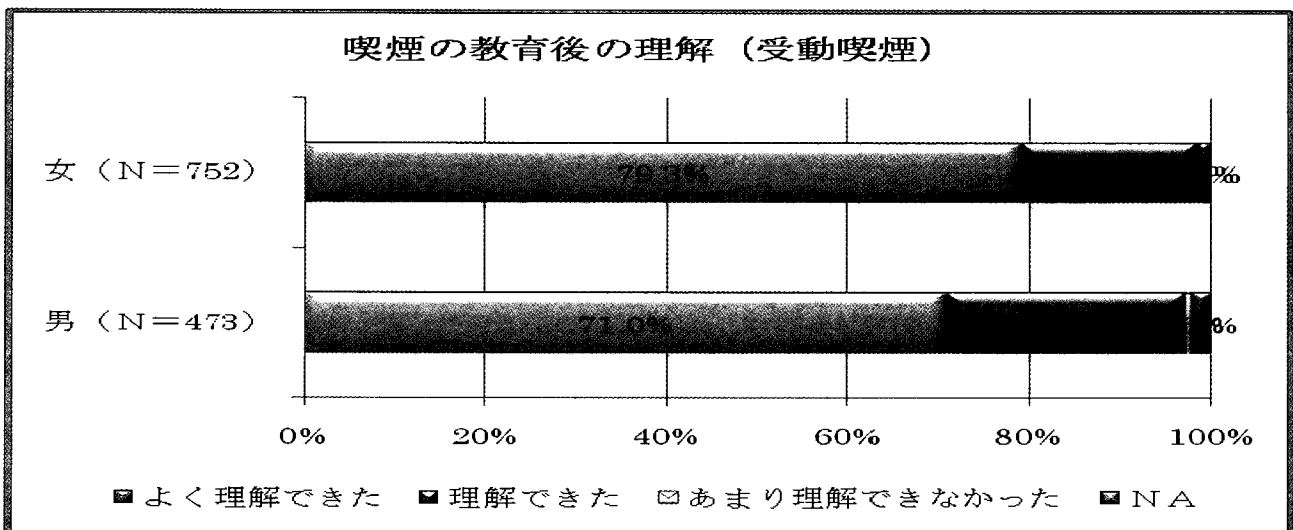
②性別

喫煙についての教育後の理解を性別で分類し、図V-19～図V-24に示した。各項目とも「よく理解できた」と回答した割合は女性に高い。また、「SIDS」の項目で、「よく理解できた」と回答したのは、男性が59.6%に対して女性は71.1%と女性に高く、20%以上の開きがある。

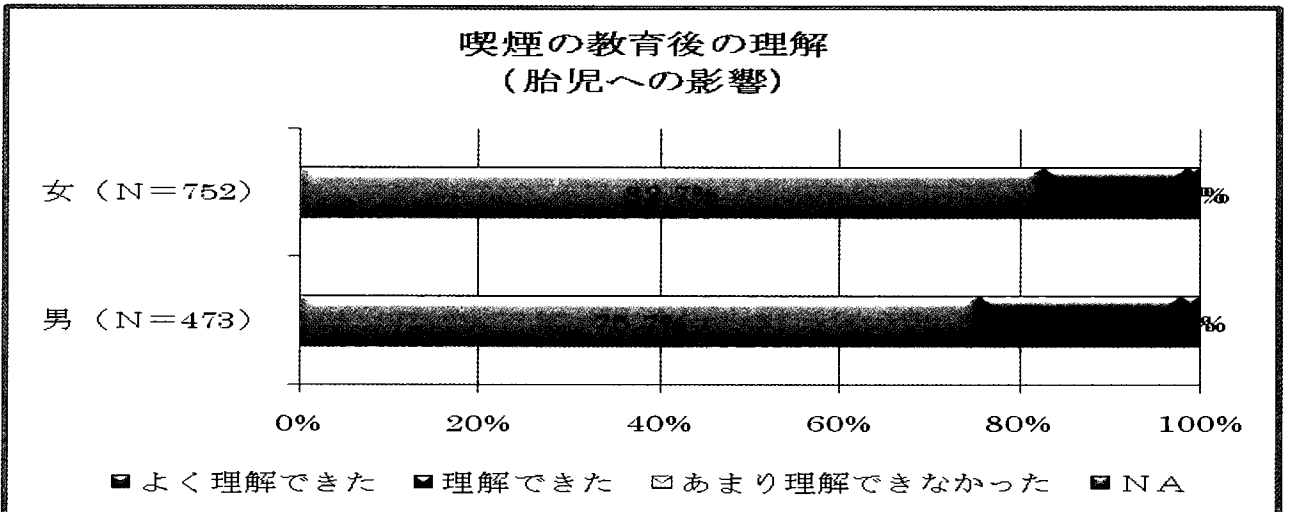
図V-19 喫煙の教育後の理解の性別分類（健康への影響）



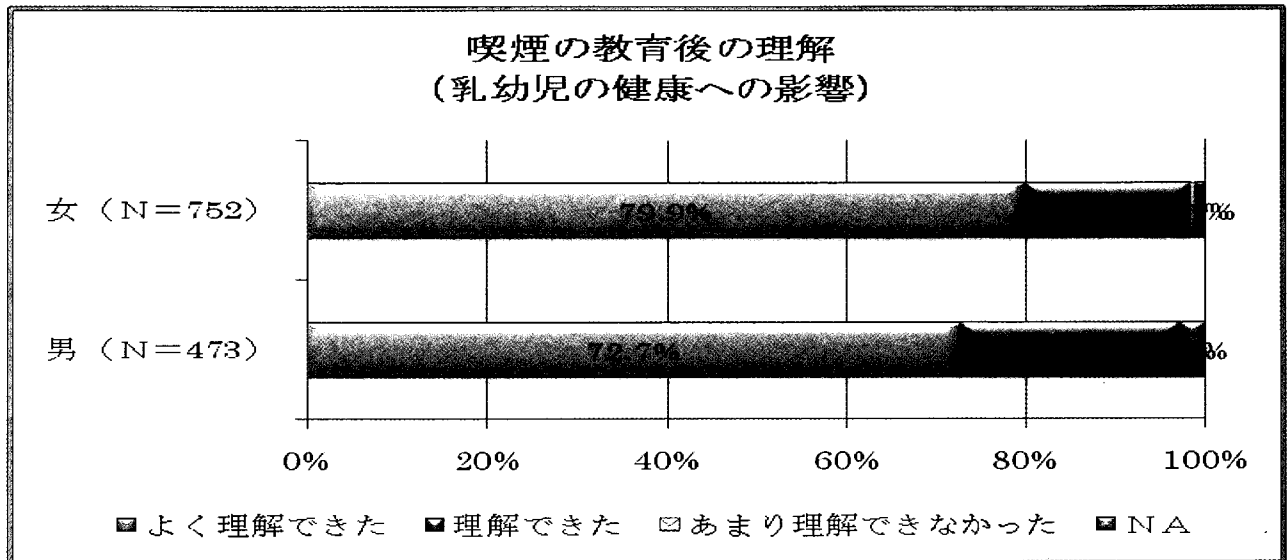
図V-20 喫煙の教育後の理解の性別分類（受動喫煙）



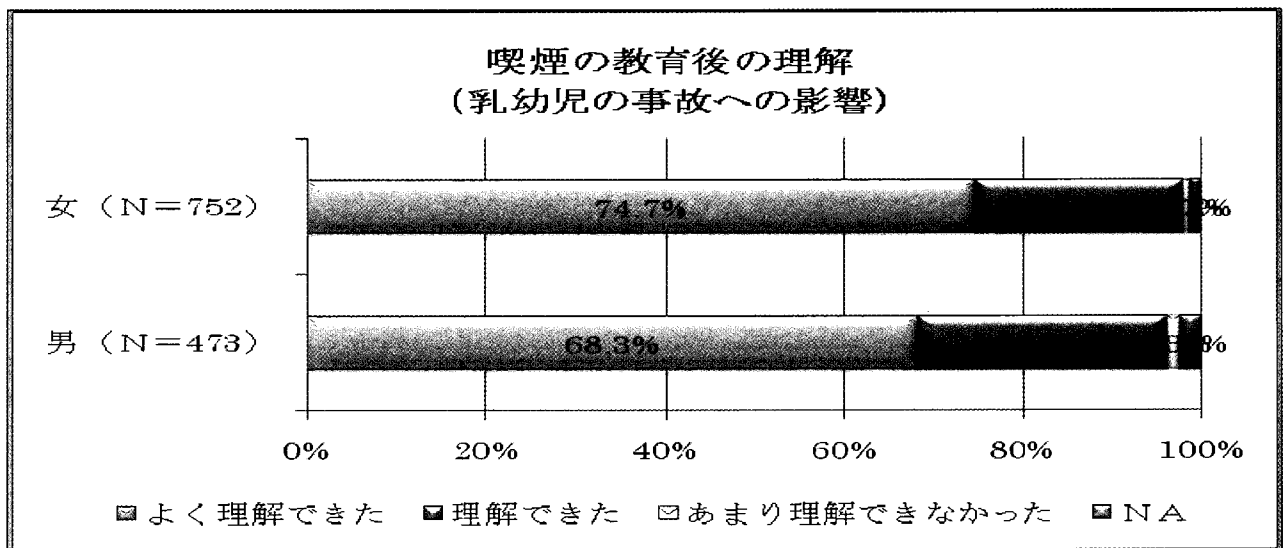
図V-21 喫煙の教育後の理解の性別分類（胎児への影響）



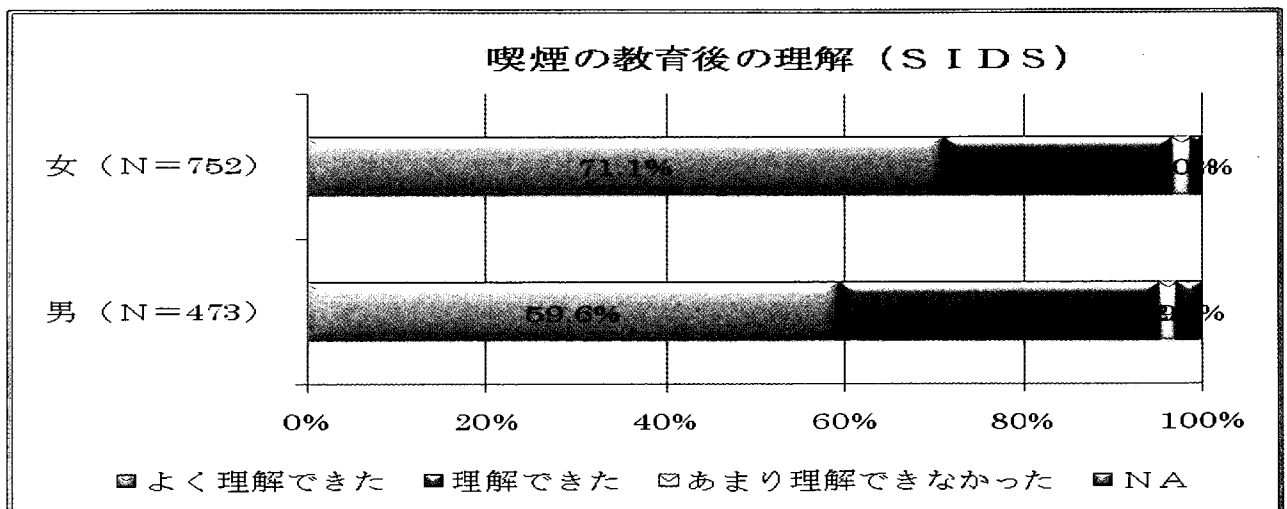
図V-22 喫煙の教育後の理解の性別分類（乳幼児の健康への影響）



図V-23 喫煙の教育後の理解の性別分類（乳幼児の事故への影響）



図V-24 喫煙の教育後の理解の性別分類（SIDS）



③年齢別

喫煙についての教育後の理解を5歳きざみの年齢で分類し、図V-25～図V-30に示した。

いずれの項目においても、「よく理解できた」「理解できた」と回答した割合に各年齢による差は認められない。また、「健康への影響」「受動喫煙」「胎児への影響」「乳幼児の健康への影響」の項目で「よく理解できた」との回答に、年齢による差は認められない。

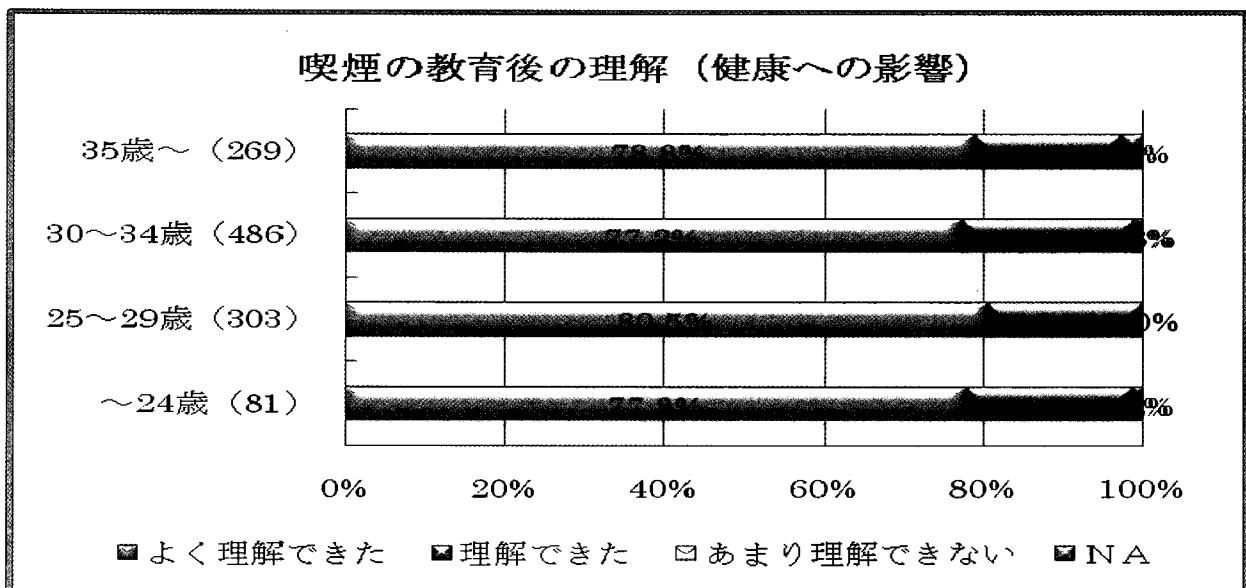
「乳幼児の事故への影響」「SIDS」の項目では、「25歳～29歳」に「よく理解できた」と回答した割合が最も高く、次に「～24歳」と続く。

「よく理解できた」と回答した割合は、「乳幼児の事故への影響」で「25歳～29歳」と「30歳～34歳」は8%程度、「SIDS」では「25歳～29歳」と「35歳～」で12%程度の開きがある。

年齢による喫煙の教育後の理解は、項目により差があると考えられる。

全項目で「よく理解できた」「理解できた」という回答は95%以上を占め、短時間で積極的な教育の効果を示唆している。

図V-25 喫煙の教育後の理解の年齢別分類（健康への影響）



図V-26 喫煙の教育後の理解の年齢別分類（受動喫煙）

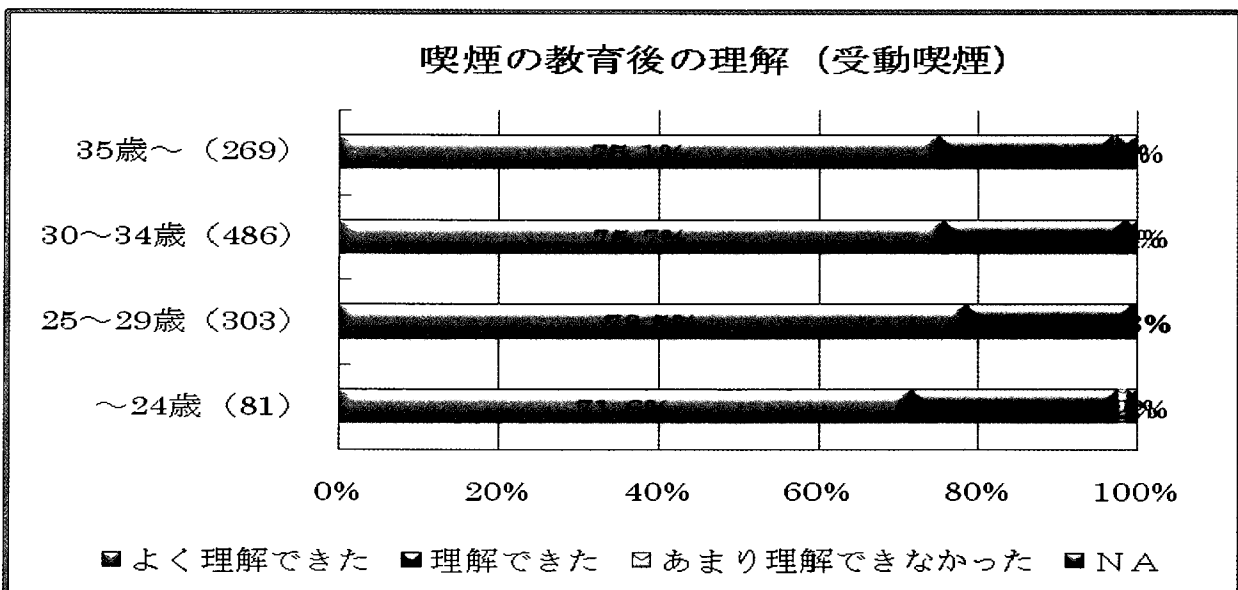


図 V-27 喫煙の教育後の理解の年齢別分類（胎児への影響）

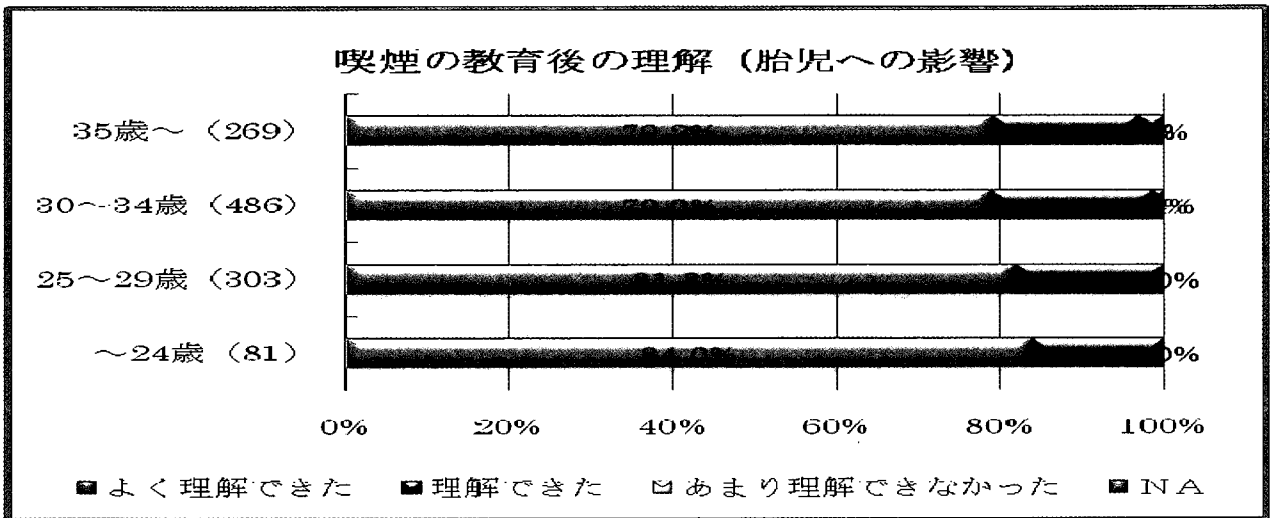


図 V-28 喫煙の教育後の理解の年齢別分類（乳幼児の健康への影響）

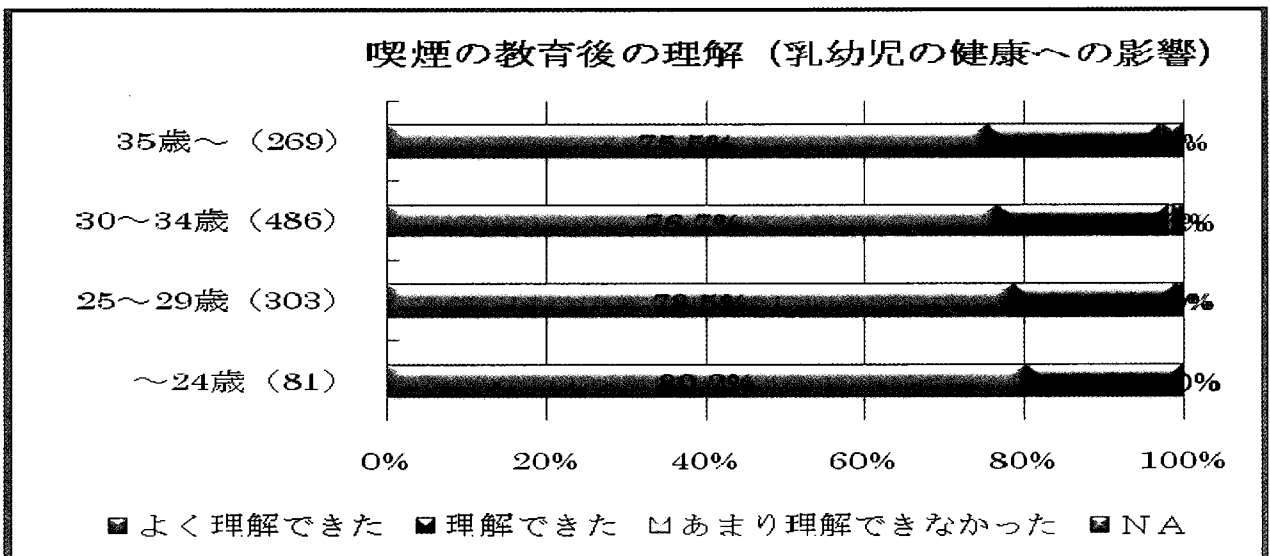
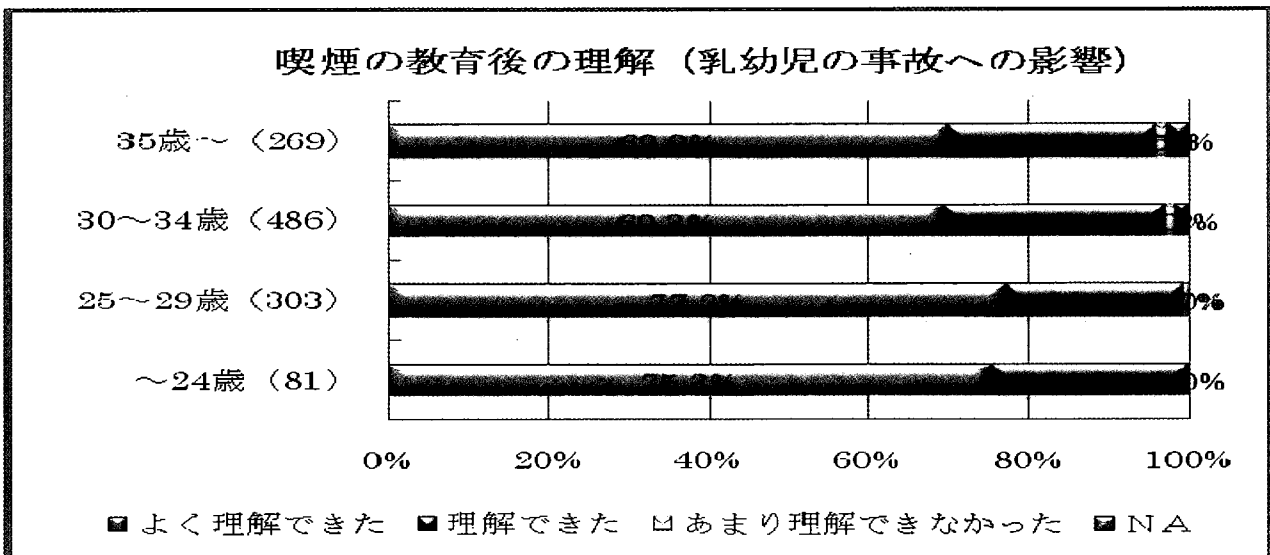
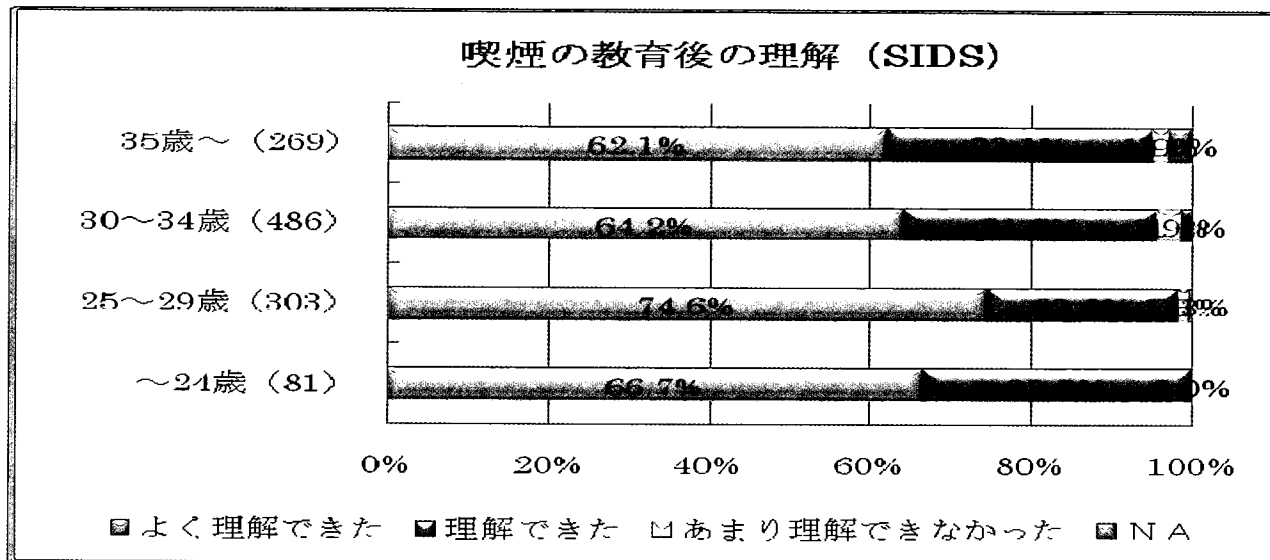


図 V-29 喫煙の教育後の理解の年齢別分類（乳幼児の事故への影響）



図V-30 喫煙の教育後の理解の年齢別分類 (SIDS)



3) 喫煙について教育後の意識変容の評価

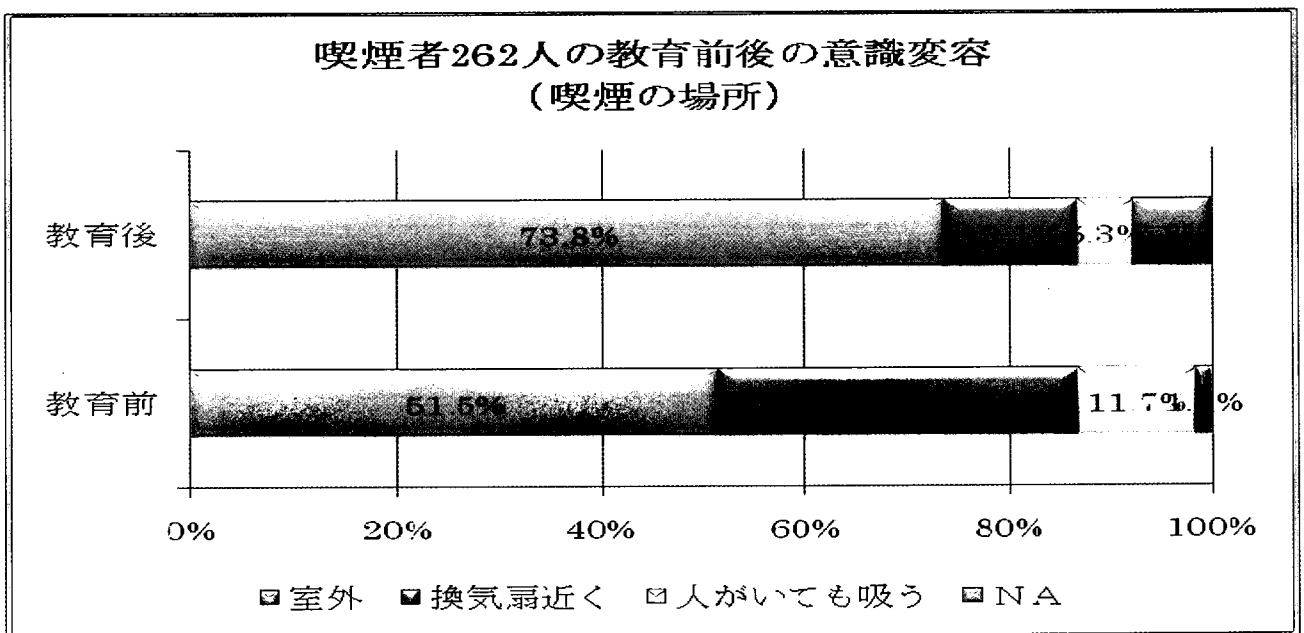
「現在タバコを吸っている」と回答した 262 人を対象に、喫煙教育後の意識の変容を、「喫煙の場所」「乳幼児の事故防止対策」「子どもへの禁煙指導」の項目で評価した。いずれの項目においても、教育後に意識変容が見られるため、教育の効果はあると考えられる。

①喫煙者の意識変容を「喫煙の場所」で評価

喫煙している 262 人について、教育前後の意識変容を「喫煙の場所」で評価し図 V-31 に示した。教育前「室外で吸う」と回答した割合が 51.5%であるのに対して、教育後は 73.8%であり、22%以上高くなっている。また、教育前「換気扇の近くで吸う」と回答した割合が 35.4%に対して、教育後は 13.1%であり、20%以上低くなっていることから、母親学級における健康教育は、受動喫煙防止の教育の効果はあるものと考えられる。

一方、教育前に「人がいても吸う」と回答した者は 11.7%に対して、教育後 5.3%と 5%前後しか低くなっていない。最も意識・行動変容の必要である「人がいても吸う」と回答した群に対しては、何らかの教育手法の工夫が必要であると考えられる。

図 V-31 喫煙者 262 人の教育前後の意識変容（喫煙の場所）



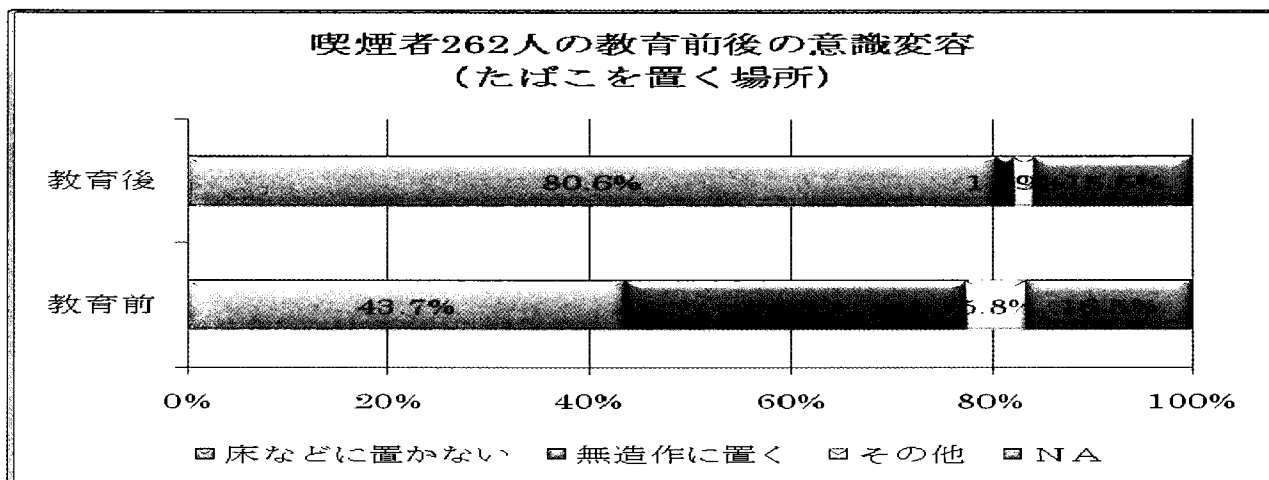
②喫煙者の意識変容を「たばこを置く場所」で評価

喫煙している 262 人について、教育前後の意識変容を「たばこを置く場所」で評価し、図 V-32 に示した。

教育前「たばこを床などに置かない」と回答した割合が 43.7%であるのに対して、教育後は 80.6%であり、37%高くなっている。

また、教育前「たばこの置き場所は気にしない」と回答した割合が 34.0%に対して、教育後は 1.1%であり 30%程度低くなっていることから、喫煙の場所についての教育の効果はあがっており、事故防止に対する意識が変化したと思われる。

図 V-32 喫煙者 262 人の教育前後の意識変容 (たばこを置く場所)

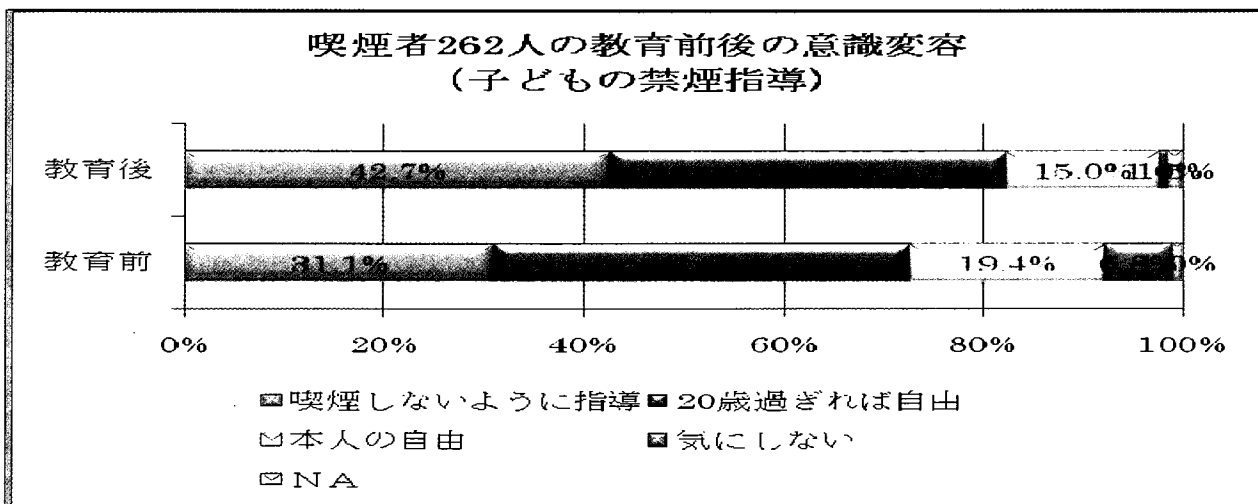


③子どもへの禁煙のしつけ

喫煙している 262 人について、教育前後の意識変容を「これから生まれてくる子どもに対する禁煙指導」で評価し、図 V-33 に示した。教育前「喫煙しないようにしつける」と回答したのは 31.1%であり、教育後は 42.7%と高くなっており 11.6%の開きがみられる。

また、「喫煙しないようにしつける」あるいは「20歳すぎれば自由」と回答したのは、教育前 72.8%に対し、教育後は 82.6%と高くなっており、10.2%の開きがある。

図 V-33 喫煙者 262 人の教育前後の意識変容 (子どもの喫煙指導)



4) 喫煙状況による教育前の知識

受講者を喫煙している群（以下「吸う群」という）・喫煙していない群（以下「吸わない群」という）・禁煙した群（以下「止めた群」と言う）に分類し教育前の知識を比較し、図V-34～図V-39に示した。

「乳幼児の事故への影響」の項目で、「以前よりよく知っている」と回答した割合は、「やめた群」に最も高く、次に「吸わない群」と続き、「吸う群」が最も低い。

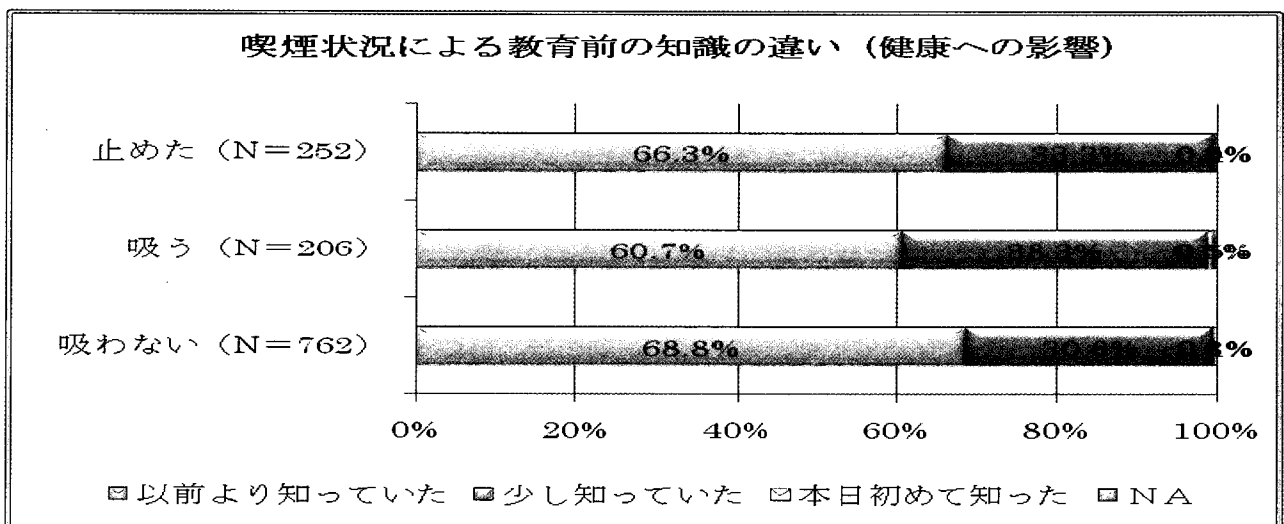
「乳幼児の健康への影響」「胎児への影響」「SIDS」の項目で、「以前よりよく知っている」と回答した割合は、「吸わない群」に最も高く、次に「やめた群」と続き、「吸う群」に最も低い。

「健康への影響」「乳幼児の事故への影響」「SIDS」の項目で、「以前よりよく知っていた」と回答した割合は「止めた群」の方が「吸う群」より高く、「健康への影響」で6%、「乳幼児の事故への影響」で8%、「SIDS」で9%の開きがある。

「乳幼児の健康への影響」「胎児への影響」「SIDS」の項目で、「以前よりよく知っている」と回答した割合は、「吸わない群」の方が「吸う群」より高く、「乳幼児の健康への影響」で11%、「胎児への影響」では9%「SIDS」では11%の開きがある。

「受動喫煙」の項目では、「以前よりよく知っている」と回答した割合に、3群の差は認められない。

図V-34 喫煙状況による教育前の知識の違い（健康への影響）



図V-35 喫煙状況による教育前の知識の違い（受動喫煙）

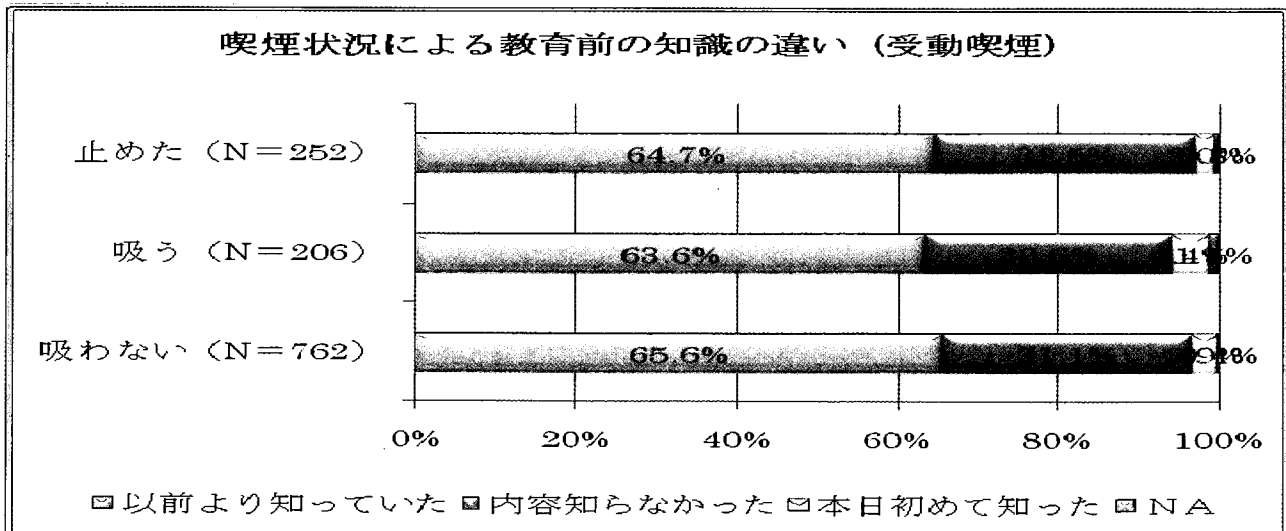


図 V-36 喫煙状況による教育前の知識の違い（胎児への影響）

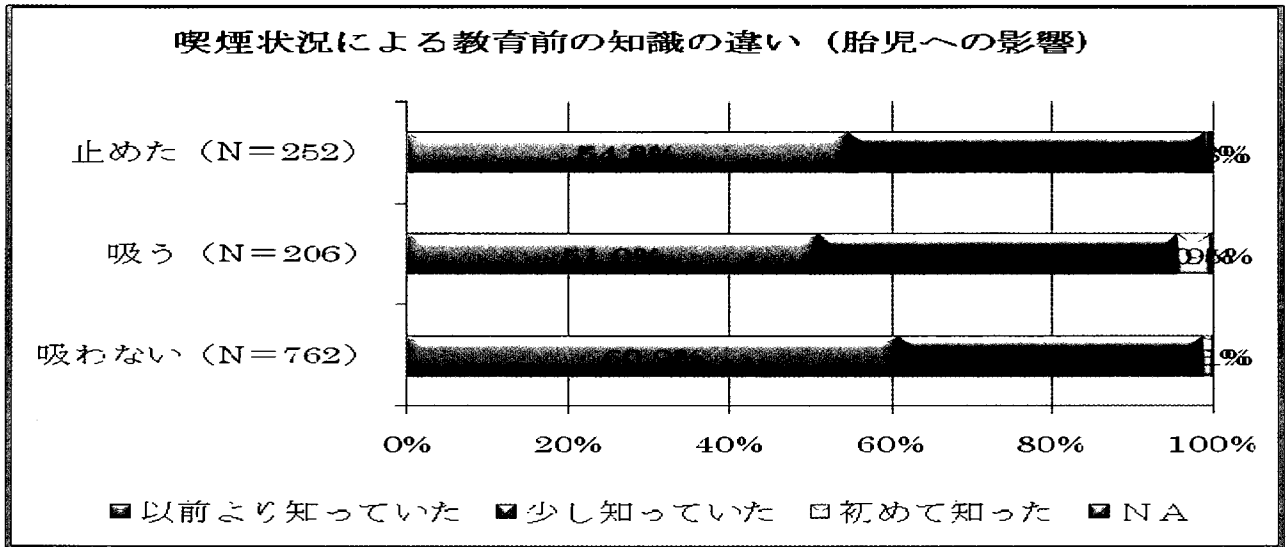


図 V-37 喫煙状況による教育前の知識の違い（乳幼児の健康への影響）

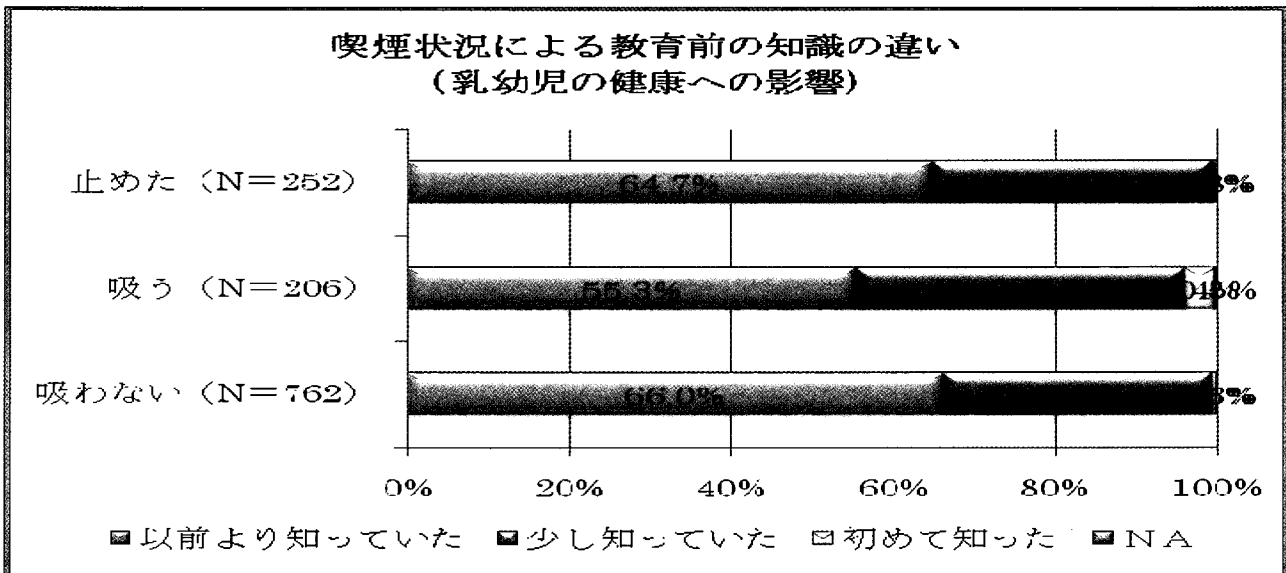
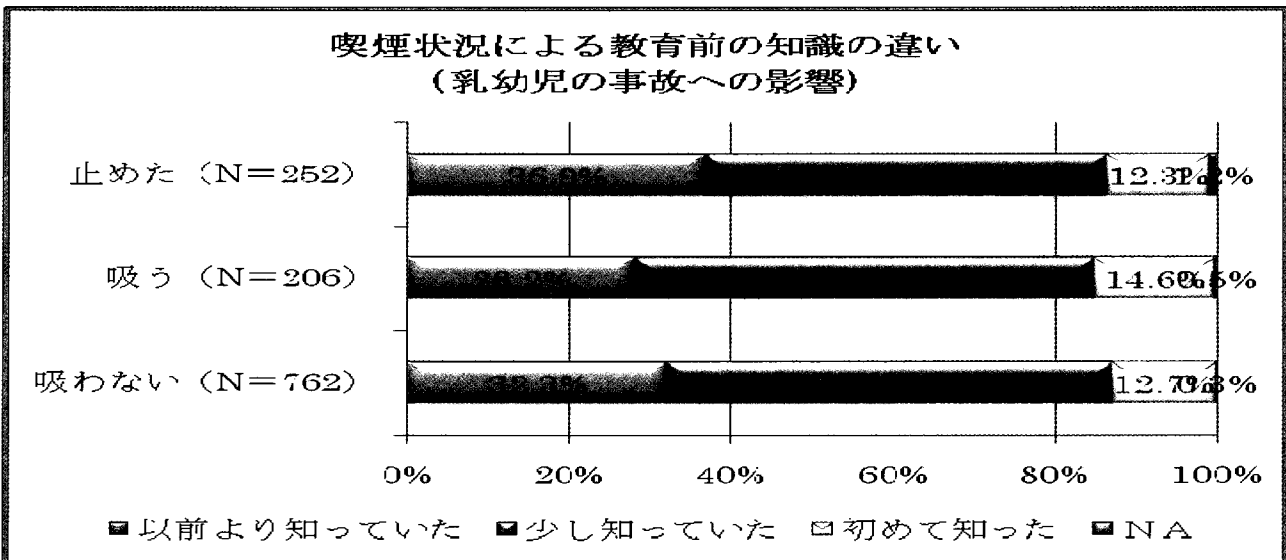


図 V-38 喫煙状況による教育前の知識の違い（乳幼児の事故への影響）



図V-39 喫煙状況による教育前の知識の違い (SIDS)

